

令和元年6月26日現在

機関番号：32605

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2014～2018

課題番号：26285029

研究課題名(和文) Multiple Democracies の理論的実証的研究

研究課題名(英文) Empirical and theoretical studies of complex realistic of Democracies in the era of digitalized globalization

研究代表者

猪口 孝 (Inoguchi, Takashi)

桜美林大学・総合研究機構・特別招聘教授

研究者番号：30053698

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,500,000円

研究成果の概要(和文)：計数化・全球化された時代において、民主主義は分析するのに複雑だけでなく、民主主義そのものの意味が難しく扱いにくいものとなっている。この研究においては以下のことを課題とした。1) 様々な民主主義の概念を探求、2) 代表民主主義に対する不満：日本・インドネシア・マレーシアでのオムニバス世論調査を通して日本とASEAN国を比較、3) アメリカ大統領選挙を通して、米国以外の国に住む地球市民がもつ不満を世論調査から明らかにする、4) 計数化・全球化された時代における、多国間条約を地球疑似立法として概念化し実証的に分析する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

20世紀末までに国連加盟国193カ国のうち120カ国がおおむね民主主義体制をとっている。しかし、民主政治は計数化された全球化が20世紀第4・四半世紀から加速されており、民主主義と全球化の咀嚼が顕著になっている。この事をまずはしっかりと取り上げ、解剖していくことの学術的意味は非常に高く評価されている。社会的意義は、国連のSDGs(Sustainable Development Goals)を見てもわかるように、一国民主主義ではなく多国間民主主義、地球社会契約という観点でなければならなくなっている。

研究成果の概要(英文)：In an era of digitalized globalization, democracy has posed not only complex realities for analysis but also made democracy a difficult concept to use. The subjects we have tackled in this project is: 1) conceptual examination of many kinds of democracy; 2) discontent with representative democracy: comparison between Japan and ASEAN countries on the basis of omnibus surveys in three countries, 3) discontent with non-representation of citizens in non-US countries in US presidential election of 2016 especially given the enormous influence the US has been exercising over many other countries, 4) conceptualization of multilateral treaties as a bundle of quasi-social contracts and empirical analysis thereof in the digitalized globalization.

研究分野：国際政治

キーワード：民主主義 代表民主主義 直接民主主義 多元的民主主義 超国家的民主主義 地球民主主義 世界的市民の選好 多国間条約への参加

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

冷戦終焉後、国連加盟国 193 カ国の内 120 の国が民主主義国と認定された。しかし、資本主義的民主主義 対 共産主義的独裁という対立の消滅後は、民主主義の勝利としばらく言われたが、すぐに疑義がはさまれた。非自由主義的民主主義の台頭が途上国で顕著になった。さらに、欧米の文明に異議を唱えるイスラム文明や中華文明の台頭が顕著になった。民主主義のタイプについても、従来主要なタイプの代議制民主主義に対する不満が高まり、直接的民主主義、共同体制民主主義、手続き的民主主義、監視制民主主義、地球市民制度民主主義、熟議的民主主義、雑種の民主主義などが、それに代わる、ないしそれを補充する多くの新しいタイプの民主主義が提唱された。

2. 研究の目的

民主主義に対抗するイデオロギーが世界的に消滅されたかのように言われるなかで、民主主義の多様性、多元性、雑種性を経験的な現実を準備的には、概念的分析を踏まえて、しかし、主として世論調査を通して実証的に分析することが研究の目的である。

3. 研究の方法

いくつもの民主主義概念が提唱され、民主主義の現実について、世界で複雑な記述、分析がなされている。概念的な検討を踏まえてからは、いくつかの多様な民主主義の現実を世論調査のデ - タ統計的分析をする。

4. 研究成果

複雑に展開している民主主義を独創的な視点と先駆的な実証分析を施した研究を続けてきた。(1)Takashi Inoguchi and Lien T.Q. Le, *The Development of Global Legislative Politics: Rousseau and Locke Writ Global*, New York: Springer (forthcoming in 2019)は従来の研究では民主主義は国内社会を焦点にあてることがほとんどであったが、本書では地球的民主主義の展望を、多国間条約の発展の統計的な方法を駆使して、開いている。1945 年以降国連に保管されている 551 の多国間条約のうち、重要なもの 120 の多国間条約をもとに、多国間条約が国内社会の市民の選好をどのように反映しているか、「旅券のない地球的諸問題」を扱う多国間条約が地球社会の要請をどのように反映しているか、多国間条約に参加・不参加を決定する主権国家の判断する国益がどのように反映されているかについて、193 の国連加盟国について、そして 10 個の国家集団について、イノベティブな分析を国際社会の 70 年余りの展開のなかに行った。多国間条約を「地球的社会契約」と「地球的疑似立法行動」としてとらえ、実証的に分析し、地球的民主主義の展望を与えている、世界でも唯一の創造的な視点から実証的分析を展開した成果である。(2)Takashi Inoguchi, ed., *The SAGE Handbook of Asian Foreign Policy*, 2 vols., New York: Springer, forthcoming in 2019)は従来の研究では、民主主義は欧米のもので、その他とりわけアジアとは疎遠なものとして扱われてきた。猪口の最新編著では、アジアの対外政策は国内社会、国内政治とは少し離れて分析されることが少なくなかったが、対外政策は国内社会と密接に関連していること、「上からの視点」だけでなく、「下からの視点」(普通の市民の日常生活からの視点)も東アジア、東南アジア、南アジア、中央アジアとアジアに近接する地域について分析している。これらの成果は内外で高く評価されている。Scopus Profile (2008-2018): h-index 14, articles 93, citations 514; Google Scholar Profile (1988-2018): h-index 35, i10-index 113, citations 4940 がその証拠のひとつである。とりわけ、英語でまず発表している点で国際的な評価の方が先行している。国際的なインパクトは非常に高い。2019 年内刊行の上記学術研究書に寄せられている推奨文は世界的にも著名な学者からのものであり、世界的なインパクトの先駆けをみることができる。たとえば、ジョゼフ・ナイ(国際政治学、ハーバード大)、エズラ・ボーゲル(アジア社会学、ハーバード大)、アン・マリー・スローター(国際法、プリンストン大)、ウィリアム・トンプソン(実証国際関係論、インディアナ大学)、ミゲル・パサネス(政治学、タフツ大学)、入江昭(歴史学、ハーバード大学)、アンドルー・ネイサン(中国政治研究、コロンビア大学)、ジョン・アイケンベリー(国際政治学、プリンストン大)などである。多くの学問分野(政治学、実証国際関係論、歴史学、比較政治学、社会学、を跨がった)称賛を受けていることと学問だけでなく、政治の実際で活躍した方(米国・国防次官補、米国・国務省・政策企画局長、メキシコ・駐米大使、米国・人権運動指導者、米国・シンク・タンク理事長)からも推奨されていることは特筆に値する。同様に、世界的な卓越した指導者を掲載しているマルキース人名事典(Marquis Who's Who)から "Lifetime Achievement Award" を猪口孝は 2019 年に受賞した(被掲載者の 3%)。頂上専門職業人国際協会(IAOTP)から猪口孝は "Top Professor of Political Science of the Year for 2019" を受賞した。

学術研究では、当初は予期しない場合でも面白い知見を期待できるかもしれないことがある。冷戦後の民主主義の展開は目まぐるしい。複雑な展開と突然の事件の生起が頻繁である。米国の大統領選挙(2016 年)の展開は米国の世論調査だけでなく、50 カ国近くの社会で、米国大統領選挙で投票できるとしたら、クリントンですか、トランプですかという質問をした世論調査

(WIN-Gallup International) がある。2016 はトランプ支持の多いロシア、中国、アフガニスタン、イラクに対して、日本はトランプ支持が世界で最も少なく、回答者の 3%であった。その後、日本政府はトランプ大統領に全般的に最も近いと言われるように展開している。この世論調査は各国代表会員の費用負担で行うために、質問数、回答者属性数が非常に少なく、鋭く深く分析することはできなかった。しかし、この 3%は 20 代、30 代に多いことは 2020 年の米国大統領選挙について日本で同じような質問を入れた世論調査ができれば、トランプ主義に共鳴する回答者の興味深い分析ができるかもしれない。マレーシアの国際イスラム教大学の教授と共同研究に合意したが、マレーシアだけが財政的に成功した。本科学研究費の極度に小さな費用でオムニバス調査の一部分で日本について世論調査を実施した。マレーシアの成果は猪口孝が編集長になっているシュプリンガー出版社の "Trust in Interdisciplinary Perspectives" からの一冊刊行を期待している。どちらについても、猪口孝「グローバル社会と統計分析の展望」松原望他（編）『データの科学の新領域』（全 3 巻、劉草書房刊行予定）に予知不能でも新しい知見につながるかもしれないような展開があることに触れている。

5 . 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 6 件)

- (1) Takashi Inoguchi, "Nambara Shigeru (1889-1974): how a Japanese liberal conceptualized eternal peace, 1918-1951," *Japanese Journal of Political Science*, Vol.19, Issue 4, 2018, pp.612-621, 査読有
DOI: <https://doi.org/10.1017/S1468109918000373>
- (2) Takashi Inoguchi, "The Wilsonian Moment: Japan, 1912-1952," *Japanese Journal of Political Science*, Vol.19, Issue 4, 2018, pp.565-611, 査読有
DOI: <https://doi.org/10.1017/S1468109918000336>
- (3) _____ (Takashi Inoguchi),
_____ (Japanese Political Culture),
2017 (Japan Yearbook 2017), Vol.46, 2017, pp.76-79, 査読有
http://yearbookjapan.ru/images/book/japan_2017.pdf
- (4) Takashi Inoguchi, "An Evidence-Based Typology of Asian Societies: What Do Asian Societies Look Like from the Bottom Up instead of Top Down?" *Japanese Journal of Political Science*, Vol.18, Issue 1, 2017, pp.216-234, 査読有
DOI: <https://doi.org/10.1017/S1468109916000384>
- (5) Takashi Inoguchi, "Asia Inquiry: A Continental Analysis," *Seton Hall Journal of Diplomacy and International Relations*, Vol.18, Issue 1, 2017, pp.73-83, 査読有
<http://blogs.shu.edu/diplomacy/files/2018/04/Asia-Inquiry-A-Continental-Analysis.pdf>
- (6) Takashi Inoguchi, "Toward Modelling a Global Social Conflict: Jean-Jacques Rousseau and John Locke," *Japanese Journal of Political Science*, Vol.17, Issue 3, 2016, pp.489-552, 査読有
DOI: <https://doi.org/10.1017/S1468109916000207>

〔学会発表〕(計 5 件)

- (1) 猪口 孝、「原子力発電所の未来についてのグローバル分析 - 原子力発電所の未来は進歩か廃炉か?」, 「アメリカ大統領選についてのグローバル分析 - あなたがアメリカ人ならヒラリーかトランプのどちらの投票するか?」, "Typology of Asian societies gauged by life satisfaction with sixteen items of life domains, aspects and styles", 統計関連学会連合大会 (応用統計学会・日本計算機統計学会・日本計量生物学会・日本行動計量学会・日本統計学会・日本分類学会), 2018
- (2) 猪口 孝、「国際ギャラップ調査 - 福島原発事故後の世界世論」, 「国際ギャラップ調査 - アメリカ大統領選挙の世界世論: あなたの国では「アメリカ第一」か、「世界運営」を優先しているか」, 日本行動計量学会, 2018
- (3) Takashi Inoguchi, "An Evidence-Based Typology of Asian Societies", International Society for Quality of Life Studies, 2018

- (4) 猪口 孝、「日本における政治学・国際政治学・比較政治学の発展と展望」、日本政治法律学会、2018
- (5) 猪口 孝、「世界政治学者の世論調査の分析」、日本政治学会、2014

〔図書〕(計 8 件)

- (1) Takashi Inoguchi and Lien T.Q. Le, *The Development of Global Legislative Politics: Rousseau and Locke Writ Global*, Springer, forthcoming in 2019, in press.
- (2) Takashi Inoguchi, “Introduction and Acknowledgements,” “Foreseeing Perspective (voir pour prévoir),” “Citizenz and Regimes,” and “An Evidence Based Typology of Asian Societies: What Do Asian Societies Look Like when Looked at from the Bottom Up instead of Top Down?” Takashi Inoguchi, ed., *The SAGE Handbook of Asian Foreign Policy*, Sage Publications, forthcoming in 2019, in press.
- (3) Takashi Inoguchi, “Leisure Satisfaction in Relation to Quality of Life Using the AsiaBarometer Survey Data,” de la Vega, Lia Rodriquez and Walter Nestor Toscano, eds., *Handbook of Leisure, Physical Activity, Sports, Recreation and Quality of Life*, Springer, 2018, 451 (19-30).
- (4) Takashi Inoguchi and Ankit Panda, “Japan’s Grand Strategy in the South China Sea: Principled Pragmatism,” Anders, Corr ed., *GREAT POWERS, GRAND STRATEGIES: The New Game in the South China Sea*, Naval Institute Press, 2018, 327 (199-223).
- (5) Takashi Inouchi, “Theoretical Underpinnings of a Global Social Contract,” Thompson, William ed., *The Oxford Encyclopedia of Empirical International Relations Theory*, Oxford University Press, 2018, 2328 (204-220).
- (6) Takashi Inoguchi and Yasuharu Tokuda, *Trust with Asian Characteristics: Interpersonal and Institutional*, Springer, 2017, 210 (1-72,143-175).
- (7) Takashi Inoguchi, *Exit, Voice and Loyalty in Asia Societies: Individual Choice under 32 Asian Social Umbrellas*, Springer, 2017, 248.
- (8) 猪口 孝、「グローバル化時代の民主主義」、岡澤 憲英 編著『比較政治学のフロンティア 21世紀の政策課題と新しいリーダーシップ』、2015、363 (12-23)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 出願年：
 国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：
 発明者：
 権利者：
 種類：
 番号：
 取得年：
 国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。